

科目コード	21107		区分	専門基礎科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育者論		担当者名	服部 由美子			○		
配当年次	1	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

保育者論は、保育士をはじめ幼稚園教諭、保育教諭など多様化する保育者像を見すえ、子どもの育ちと保護者の子育てを支える保育者の専門性について学ぶことを目的としている。保育士養成カリキュラムに準じて授業内容を設定し、保育者の役割と責務について具体的に学ぶ。目指す学習成果は、保育者の役割、保育者の倫理、保育者の資格と責務、保育士の専門性、保育者の協働と連携、保育者のキャリア形成などについてである。

<授業の到達目標>

子どもの育ちと保護者の子育てを支える保育者の専門性について学ぶに当たって、5つの目標を設定している。1. 保育者の役割と倫理について理解すること。2. 保育士の制度的な位置づけを理解すること。3. 保育士の専門性について考察し、理解すること。4. 保育者の協働について理解すること。5. 保育者の専門職的成長について理解すること。などについて、事例や図表などによってわかりやすく授業を進める。

<授業の方法>

講義では、保育所保育指針を使用し、各単元のポイントをワークシートを使って予習し、授業で深めていく。また、グループワークで意見交換をしながら具体的に理解できるようにする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習=事前課題として「保育者論」のワークシートと保育所保育指針の予習復習=単元ごとに確認テスト

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

こども発達学科では、豊かな人間性を備え、コミュニケーション能力、多方面な子ども理解とその支援ができる専門性を身に付け、次世代の発展と構築に貢献する、グローバルな保育者養成を目指している。この科目を受講して得られる知識や能力は、こども発達学科のディプロマポリシーDP1（多文化共生時代の保育者として、グローバルな視野で保育観を磨き、国際理解のための知識を身に付けている。）DP4（家族と地域をめぐる子どもの環境を整備・改善するためのコミュニケーション能力を身に付けている。）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

課題ワークシート等(予習)内容40% 振り返り(確認テスト)30% 最終レポート30%

<教科書>

厚生労働省（2018）
『保育所保育指針解説』
フレーベル館

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション 保育者の役割	保育者の援助や環境構成の役割
2	保育者の倫理	保育士の専門的倫理の概念と必要性、法律との違い
3	保育者の資格と責務	保育士の法的・制度的な特質や、資格のあり方や責務
4	養護と教育	幼稚園や保育所保育の「養護」と「教育」の具体的な内容と実践
5	保育者の資質と能力	保育者としての資質や能力への気づきと身につける方法
6	専門的な知識・技術・判断	保育者としての専門的知識・技術・判断とはどのようなことか
7	保育の省察	保育士の保育の省察とは何かを理解
8	保育課程にかかわる保育者の専門性	計画・実践・評価・改善という保育のプロセスと保育者の専門性
9	保育者の専門性と自己評価	保育者の自己評価や保育評価の種類や観点の基礎
10	園での協働	職員の協働性や協力体制、職員間の連携
11	専門機関との連携	保育現場における専門機関との連携や協働
12	保護者および地域社会との協働	保育現場における保護者や地域社会との連携や協働
13	家庭的保育者等との連携	家庭的保育の概要や連携
14	保育者の専門性の発達	保育者の発達段階モデルと発達を促す要因
15	保育者のキャリア形成	保育者の学び、資質向上への研修によるキャリア形成

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	33402		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	子ども家庭支援の心理学		担当者名	中井 和弥			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

家庭は子どもの発達を支える環境としては一番重要なものであるが、現代はその機能が弱まり、支援を必要とする家庭が増えている。この授業では、前半は子どもの発達を概説したうえで、家族や家庭の機能、親子関係を発達の観点から理解する。さらに、子育ての課題やこどもの精神保健についてもアプローチする。

<授業の到達目標>

1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期学習の重要性、発達課題について理解する。2. 家族・家庭の意義や機能を理解したうえで、親子関係や家族関係を等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。4. 子どもの精神保健とその課題について理解する。

<授業の方法>

教科書を基に講義形式で行い、資料を配布する。適宜グループワークやディスカッションを行う。| 1. 講義 | 2. グループワーク、ディスカッション | 3. 質疑応答

<準備学習等（予習・復習）> ※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（60分）：授業部分の教科書を読んで理解しておくこと。| 復習（60分）：授業で教わったことを振り返り、課された小課題に取り組むこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

<成績評価方法> ※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度や受講意欲（20%）| 小課題（40%） ※毎回の授業後に課題を課します。| レポート（40%）

<教科書>

公益社団法人児童育成協会監修・白川佳子他編（2019）

新基本保育シリーズ9 子ども家庭支援の心理学

中央法規

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業の受け方、評価方法などについて説明
2	乳幼児期の発達	認知・言語・社会性・自我の発達、初期経験の重要性、保育場面における遊びの発達についての研究、発達心理学と発達精神病理学、発達の道すじにおける連続性と非連続性
3	幼児期の発達	認知の発達、言語の発達
4	学童期の発達	学童期の特徴、学童期の仲間関係
5	青年期の発達	身体の変化、対人関係の変化、心の変化
6	成人期・中年期の発達	成人期、中年期
7	高齢期の発達	高齢者に関する日本の現状、高齢期の特徴、認知症
8	家族・家庭の意義と機能	家族・家庭とは、結婚、家族・家庭に関する変化
9	家族関係・親子関係の理解	家族のライフサイクル、家族システム論、円環的因果律
10	子育てを取り巻く社会的状況	晩婚化・非婚化をめぐる状況、出産・子育てをめぐる社会的状況、子育てを支える、要保護児童と家庭への支援、高度生殖医療と喪失
11	ライフコースと仕事・子育て	ライフコースとは、女性・男性のライフコースの歴史的变化と特徴、ライフコースの選択とモデル、性役割分業とライフコース
12	子どもの貧困	子どもの貧困とは、子どもの貧困の現状、子どもの貧困による影響、子どもの貧困に対して保育士にできること
13	特別な配慮を要する家庭	養育者のメンタルヘルス、子どもや家庭の障害、不適切な養育と家族の機能不全、逆境の小児期体験（ACEs）の影響、保育現場におけるトラウマインフォームド・ケア、トラウマが保育者に与える影響、保育者のセルフケア
14	子どものこころの健康にかかわる問題	子どもの心身の健康、国際比較
15	保育者に関する現状と課題	高校生、保育学生、保育士

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	34210		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	子どもの理解と援助		担当者名	中井 和弥			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	必修

<授業の概要>

子どもの発達を理解したうえで演習を通して子どもや親への関わり方、発達の援助等を実践的に学ぶ科目である。第1回目から第3回目までは「子どもの実態に応じた発達や学びの把握」について、第4回目から第9回目までは「子どもを理解する視点」について、第10回目から第12回目までは「子どもを理解する方法」について、第13回目から第15回目までは「子どもを理解に基づく発達援助」について学ぶ。

<授業の到達目標>

1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することに意義について理解する。2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

<授業の方法>

1. その回のポイントを説明する。2. その回のテーマに沿って講義を行う。3. その回のテーマを深く理解するための演習を実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

予習（60分）：授業部分の教科書を読んで理解しておくこと。復習（30分）：授業内で実施した演習について、さらに理解を深めること。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

空白で構いません

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

受講態度や受講意欲（20%）|小課題（40%） ※毎回の授業後に課題を課します。|レポート（40%）

<教科書>

<参考書>

松本峰雄監修・伊藤雄一郎他（2021）

よくわかる！保育エクササイズ8 子ども理解と援助演習ブック

ミネルヴァ書房

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション／保育における子ども理解の意義	授業の目的・概要・進め方について、発達という言葉の意味、乳幼児期に子どもが学ぶべき事項
2	子どもの理解に基づく養護と教育の一体的展開	保育における養護と教育、両者の一体的展開とそのねらい
3	共感性	ほかの人との関係の構築、共感性の理解、共感性のトレーニング
4	子どもの遊び	遊びとは、遊びにおける配慮
5	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	アタッチメント、アタッチメントに基づくかかわり
6	子どもの集団での育ち	子どもの集団での関わり、子どもの育ちにつながる関わり
7	葛藤やつまずき	保育における葛藤・つまずき・いざこざ、事例からみる葛藤、つまずき、いざこざへの支援
8	保育の環境の理解と構成	保育の環境、子どもの理解を踏まえた環境の構成および再構成
9	環境の変化や移行	環境の変化や移行とは、環境の変化や移行からの適応まで、環境の変化や移行していくための保育者の援助
10	自分と他人の強みを理解する	強みを知る、他人の強みを知る
11	職員間の対話	職場における人間関係、円滑なコミュニケーションの構成要素
12	保護者との情報共有	保護者と保育者の連携、保護者同士の連携
13	発達の課題に応じた援助と関わり	発達課題、乳児期の発達と保育、幼児期前期の発達と保育、幼児期後期の発達と保育
14	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	特別な配慮を要する子どもの理解、発達障害の子ども理解、障害以外の特別な配慮を要する子どもの理解
15	発達の連続性と就学への支援	発達の連続性、保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園から小学校への連携

科目コード	23202		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育社会学		担当者名	藤原 佳代子			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	講義	卒業要件	必修

<授業の概要>

教育とは、学校という限られた空間と時間の中での営みではなく、家庭や地域社会とのかかわりの中で日常的に発生する不断の社会的営みである。授業では、受講生自身のこれまでの学校生活や社会生活を振り返りながら、教育にかかわる事象を身近な半径5mからも考え分析し、今後における教育に関わる社会的諸課題を整理する。学校現場の実態にも極力触れるようにする。

<授業の到達目標>

1. 現代社会における教育に関わる諸課題を背景と合わせて理解し、言語化することができる。| 2. 実際の教育現場における諸課題を整理して説明することができる。| 3. 協働学習に主体的に参加し、グループワークの充実に貢献できる。|

<授業の方法>

1. 講義（教員による説明と課題の提示）毎回、授業冒頭に半径5mからの身近な教育社会学を考える| 2. ディスカッションとグループワーク（課題の省察）| 3. 課題の提出（ノート提出も含む）|

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

1. 準備物等：授業には、A4版のキャンパスノートを用意すること（ルーズリーフは不可）。| ノートを準備できていない者の受講を認めない。| 2. 事前学習| 3. 事後学習|

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業は、本学の一般教養ディプロマポリシーのDP4（家族と地域をめぐる子どもの環境を整備・改善するためのコミュニケーション能力を身に付けている。）及びDP6（保育者としての自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観等を身に付けている。）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業時のノート提出（20%） 授業時の取り組み（20%） 中間課題（20%） 定期試験（40%）

<教科書>

<参考書>

内海崎貴子（編著）
新・教職のための教育原理（第3版）
八千代出版

授業では本以外の事にも多く話題にするが、参考書として使用する。

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	家庭と子ども	子どもにとっての家庭・教育
2	学校と子ども	学校の中の子ども
3	社会と子ども	情報化社会の中の子ども
4	「教育」を考えるとこと	人間の発達と教育
5	子どもをどう見るか、どう見られていたか	人間はどのように学習するのか
6	何を教えるのか	初等教育、中等教育の発展過程と学習指導要領の変遷
7	どのように教える（学ぶ）のか	メリトクラシーと社会階層の再構成学校における授業の形態
8	日本の近代教育制度の歩み	江戸時代の教育から現代の教育まで
9	西洋近代の教育思想から学ぶ	4人の教育思想から学ぶ
10	教員としてできること	教育実習から学んだこと、現代の諸相の中で出来ること
11	人としての生き方を考える	教育の価値
12	多様性を活かす教育（人権とジェンダー）	隠れたカリキュラムとジェンダー
13	教育を支える制度基礎	変わりゆく教育制度・教育委員会制度
14	学校と地域社会	コミュニティの概念と地域の教育力
15	これからも学び続けるために	学校教育の将来像と次世代に求められる教育

科目コード	34101		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育内容総論		担当者名	檜寄 日佳			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における保育内容を相互的、総合的に理解し、保育の全体構想の中でとらえる。保育の目標、子どもの発達、「遊び」や「生活」、「環境」などから捉える保育の内容、歴史的変遷、今日的課題などを学び、保育所・幼稚園・こども園において展開される保育や教育への実践力を高めていく手立てを考察する。また、実際の指導に当たっての指導案作成についても学ぶ機会とする。

<授業の到達目標>

1. 保育内容各論の内容について子どもの遊びや生活の中で総合的に捉える視点を持つことができるようになる。
2. 保育者の役割と援助等、保育者の専門性を理解する。

<授業の方法>

- ・ 講話を通して、課題の提示や説明・課題についてのグループワーク・課題についての演習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

- ・ 予習：学習予定表に沿って、次回の内容に関する教科書や参考資料を読み、授業の準備をする。（60分程度）
- ・ 復習：各回の講座の内容について、個人またはグループで復習をし、講義ごとのワークシートの追加記入や復習をする。（60分程度）

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

この科目は、「乳幼児期の子ども理解に対する発達観点、教育的観点、心理的観点、福祉的観点等、多面的に子どもを理解する力」を身に付けるための演習科目である。こども発達学科のディプロマポリシー③（子どもを取り巻く環境、様々な問題や文化状況に対して、子ども学の知見と教養に基づく知識と、理解する能力を身に付けている）ディプロマポリシー②（乳幼児期から青年期に至るまでの子どもに対する発達の、教育的、心理的、感性的、福祉的観点等、多角的に子どもを理解する能力を身に付けている）⑦（主体的に自己のが学習を振り返り、セルフマネジメント能力と生涯学習能力を身に付けている）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

- ・ 学習態度15%、授業課題30%、グループ貢献度 15%、振り返り及び小テスト40%・提出物は期限厳守のこと

<教科書>

神田伸生・高橋貴志編著（2019年8月10日）

演習保育内容総論

萌文書林

<参考書>

文部科学省（平成30年3月23日）

幼稚園教育要領解説

フレーベル館

厚生労働省（2018年3月23日）

保育所保育指針解説

フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（平成30年3月29日）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授 業 内 容
1	オリエンテーション	授業の目的・意義・概要
2	保育の全体構造	総論であることの意味、保育の場が目指すこと
3	保育内容の歴史的変遷と社会的背景	保育内容の変遷、幼稚園・保育園・認定こども園の教育及び保育
4	子どもの発達や生活に即した保育内容	子どもの発達に即した保育とは、乳幼児期の発達と保育
5	養護と保育の一体性	保育所における養護と教育の一体性、就学前保育施設における養護と保育の一体性
6	子どもの生活と保育内容	現代の子どもの生活と保育内容、保育の場における生活、家庭の生活との連続性、総合性
7	子どもの遊びと保育内容	遊びの捉え方、遊びを通した保育の実践、遊びの中での保育者の役割
8	環境を通して行う保育内容	乳幼児保育の基本、環境を通して行う保育、環境を通して行う保育の具体的な展開
9	保育における「領域」（1）	領域と保育内容、保育の総合性
10	保育における「領域」（2）	領域の考え方や指導計画、保育における評価、計画・評価の基となる記録
11	多様な保育の場における保育内容（1）	子ども子育て支援制度、様々な保育の場、地域型保育事業等の保育内容
12	多様な保育の場における保育内容（2）	延長保育・預かり保育、多様な保育を進めるために
13	様々な配慮を要する子どもの保育	障がいのある子どもの保育、他機関との連携、多分文化共生の保育
14	小学校教育との接続	小学校教育との連続性、アプローチカリキュラムとスターとカリキュラム、学力の3要素と保幼小の接続
15	現代社会の特質と保育内容	現代社会と保育内容、保育サービスの見直し

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	34105		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	子どもとマルチメディア		担当者名	本庄 慶樹			○		
配当年次	カリキュラムにより異なります。	配当学期	後期	単位数	2	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

情報通信。情報機器を利活用して、子どもの発育、教育教材を制作する。乳幼児期から児童期・青年期に至るまでの子どもの発達の観点、教育的観点等を多面的に理解した上で、情報リテラシー・情報機器操作スキルを利活用した、子どもの教育を工夫する。

<授業の到達目標>

実践的な課題に取り組み教育の場で活用できる技術と問題解決能力、論理的思考力を育む。また、課題の創作活動を通して、情報機器を活用したメディアでの芸術的な技術力、表現力を身につける。

<授業の方法>

授業は各自が持参したPCを用いた演習形式で行うため、PCは必携である。教育現場で即戦力となるコンテンツ、文書や資料の作成、発表を授業内課題とし、その課題提出、発表をもって成績評価とする。与えられた課題に対する評価はもとより自他の作品について考察し、自己能力の向上に努める学習状況を評価の対象とする。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

授業で必要となるコンピューターとソフトの操作を予習しておくことは必須である。授業時間は、課題制作の方法を学び試作を行う時間、または発表及び他者の発表から学ぶ時間である。別に期限までに課題を制作する時間が各90分から120分程度必要である。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

子どもを取り巻くインターネットを含む情報や情報機器の環境は年々変化しており、現状の変化への感受性も教育者の資質といえよう。そういった環境変化を受け入れるという事は、対応・利活用できる資質を持つことが必要である。その資質とは、子ども学の知見と教養に基づく知識を理解した上で成り立つものである。(DP3)子どもの保育・教育へのICT利活用能力のみならず保護者や教育関係者との円滑なコミュニケーションにも実践力・創造的思考力を発揮できる能力を身に付ける。(DP5)

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

提出課題の完成度 30%、提出課題の取り組み 30%、講義内学習発表状況 40%

<教科書>

特になし

<参考書>

特になし

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	Eメールとクラウドの活用	Eメールやクラウドについての知識の再確認と、現在の子どもを取り巻く問題点と課題を考える。
2	著作権と教育利用	ICTの教育への利用の著作権、肖像権等、様々の注意点や問題点を出し考えていく。
3	プログラミング教育	創造力、問題解決能力の育成のためのプログラミング教育（スクラッチ）を自ら体験する。
4	子どもとプログラミング教育（実践1）	プログラミング言語ビズケットを使って如何に子どもに課題を与えるかを考える。
5	子どもとプログラミング教育（実践2）	プログラミングできるブロックを使っての子どもへの教育企画を考える。
6	ガジェット制作から学ぶ（実践1）	アニメーション作成を通して、パワーポイントでの動画作成の基本操作を学ぶ。
7	ガジェット制作から学ぶ（実践2）	ガジェット作成を通してベクター画像作成を実践する。
8	電子絵本制作から学ぶ（1）	電子絵本を読み聞かせして試みることで、可能性と課題を探る。
9	電子絵本制作から学ぶ（2）	既存の絵本を作画することで、場面設定を学ぶ。また、電子絵本での可能性を考察する。
10	電子人形劇制作から学ぶ（1）	作品制作に必要な構成力を磨く。
11	電子人形劇制作から学ぶ（2）	発表を通じて、課題発見、解決の能力を養う。
12	ビデオ作成	様々のコンピュータスキルを駆使し、課題制作をすることで、スキルと創造力・問題解決能力を磨く。
13	ミュージックビデオ作成	制作と発表を通して、発達の観点、教育的観点等、多面的に学ぶ。
14	Webサイトの現状について	園、学校等のWebサイトの現状について考える。
15	Webサイト作成	HTML、CSSを用いた、制作技術を学ぶ。

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52006		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導 I B(施設)		担当者名	坪田 章彦			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

児童福祉施設実習に臨む心構えを学ぶとともに、施設実習における自己課題を見出す。また、施設実習中の子どもとの生活を通し、子ども理解を深め、児童養護実践力の向上に努める。

<授業の到達目標>

・児童福祉施設における記録方法について学ぶ。・施設入所児童への理解を深め、実際の支援について考える。・施設実習での活動を通して、保育者としての自己課題を見出す。

<授業の方法>

講義、グループワーク、個別指導等を適宜組み合わせる。また、必要に応じて上級生（保育実習 I B既習者）等をゲストに迎えて心構えに関する演習を行う。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に手引きをよく読んでおくこと(1時間以上)。配布された資料をファイルし、授業後に内容を整理すること(1時間以上)。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

社会福祉施設における保育士の意義及び役割を学び、保育実習 I B(施設)へと繋げられるように知識を修得する。また、主体性・多様性・共同性の考え方を育てよう学びを深める。こども発達学科ディプロマポリシー2「乳幼児期から青年期に至るまでの子どもに対する発達の、教育的、心理的、感性的、福祉的観点等、多面的に子どもを理解する能力を身に付けている」及びディプロマポリシー3「子どもを取り巻く環境、様々な問題や文化状況に対して、子ども学の知見と教養に基づく知識と、理解する能力を身に付けている」に対応する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

授業態度50%、実習に向けた実習ノート作成等の課題50%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会(2021)

「保育実習の手引き」

保育士養成協議会

厚生労働省

保育所保育指針（平成29年告示）

フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省

幼保連携型認定こども園教育・保育教育要領

フレーベル館

<参考書>

適宜指示します

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	オリエンテーション	授業担当教員紹介と実習参加条件及び受講ルールについて
2	実習の意義と目的	実習の意義・目標、スケジュールについて
3	施設の種類と内容(1)	施設概要の学習(養護系施設)について
4	施設の種類と内容(2)	施設概要の学習(障害児施設)について
5	施設の種類と内容(3)	施設概要の学習(障害者支援施設)について
6	実習記録(1)	実習日誌の意義について
7	実習記録(2)	実習記録のポイントと方法について
8	実習記録(3)	実習記録のポイントと方法について
9	実習書類作成	自己紹介状、誓約書、出勤簿等の作成について
10	実習施設の学習	実習施設のプロフィール調査について
11	実習課題の設定	実習課題の理解と作成について
12	事前訪問指導	実習課題の理解と作成及び事前オリエンテーションの諸注意について
13	実習の実際	保育実習 I B既習者である上級生からアドバイス、及び公欠届について
14	実習の心構え	プライバシーの保護と守秘義務、人権尊重と実習態度について
15	実習事後指導とまとめ	お礼状の作成・発送、体験報告、反省課題と報告書の作成について

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52005		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導ⅠA(保育所)		担当者名	檜寄 日佳			○		
配当年次	2	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習ⅠAの事前学習と事後学習のためのものである。保育実習を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習目標・課題を明確にするとともに、保育実習の位置づけ、各保育実習の福祉施設の目的や保育士の保育の基本・業務などを学び、実習に際して、事前・事中・事後においてなすべき内容を理解し、保育実習の全体を把握する。社会人としてのマナーや保育士としての心構えも具体的・実践的に学んでいく。

<授業の到達目標>

1. 保育の観察、記録、実習の計画、実践、評価の方法や内容について具体的に理解する。2. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

<授業の方法>

講義、演習、個別指導、グループワーク

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

事前に実習の手引きを熟読して授業に臨むこと（60分）。配布資料をファイルし、授業後に内容を確認し整理すること（60分）。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

保育士資格取得のために必要な科目である。こども発達学科のディプロマポリシー3（子どもを取り巻く環境、様々な文化や文化状況に対して、子ども学の地点と教養に基づく知識と、理解する能力を身に付けている。）2（乳幼児期からの青年期に至るまでの子どもに対しての発達の、教育的、心理的、感性的、福祉的観点等、多面的に子どもを理解する能力を身に付けている。）に対応している。3年次配当の保育実習指導Ⅱに引き継がれ、さらに専門的知識の習得や保育技術力アップを図り、保育者としての自覚と実践力を高める機会とする。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業態度・意欲 30%、課題提出・内容 30%、保育技術実技の準備・取り組み 20%、模擬保育等の準備・グループ貢献度 20%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会（2019）

保育実習の手引き

岡山県保育士養成協議会

<参考書>

厚生労働省（2017）

保育所保育指針

フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省（2017）

幼保連携型認定こども園教育・保育要領

フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	実習の基本的理解	保育実習の意義・目的、実習の概要
2	保育所実習の内容（1）	保育の基本、保育の内容と方法
3	保育所実習の内容（2）	障がい児保育、子どもの健康及び安全
4	保育所実習の内容（3）	保育所実習の実際
5	指導計画の作成（1）	保育課程と指導計画、模擬保育見学
6	指導計画の作成（2）	指導案作成の手順・留意事項、模擬保育への参加（1）
7	指導計画の作成（3）	指導案作成・模擬保育への参加（2）
8	指導計画の作成（4）	指導案作成・模擬保育への参加（3）
9	実習課題の明確化	自己課題の持ち方
10	指導案に基づく模擬保育	指導案に基づく模擬保育の実践
11	実習の準備（1）	実習関連書類の作成
12	実習の準備（2）	実習日誌の形式と記入の仕方、実習園でのオリエンテーション
13	実習の留意点と事前指導の総括	守秘義務と子ども・保護者の人権擁護、実習生としての心構え
14	事後指導（1）	実習成果や新たな課題の共有と検討
15	事後指導（2）	自己評価・課題の整理・学習目標の明確化

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52007		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習 I A (保育所)		担当者名	平松 美由紀			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、認可保育所において観察・参加・部分実習を行う。・保育所での実習を通して、乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・保育所の役割や機能を具体的に理解する。・観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・保育の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習園での実習・観察実習・参加実習・責任実習（部分指導、半日指導）・担当保育者との振り返り

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・岡山県保育士養成協議会「保育所実習の手引き」、配布資料、教材資料等を熟読する。・保育実習に必要な保育技術（遊びの指導、絵本の読み聞かせ、弾き歌い等）の反復練習に努める。・保育指導計画案の作成と、それに基づく模擬保育実践を行い、実習へのイメージをもつ。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

保育士資格取得のために必要な科目である。こども発達学科のディプロマポリシー3（子どもを取り巻く環境、様々な文化や文化状況に対して、子ども学の地点と教養に基づく知識と、理解する能力を身に付けている。）とディプロマポリシー2（乳幼児期からの青年期に至るまでの子どもに対しての発達の、教育的、心理的、感性的、福祉的観点等、多面的に子どもを理解する能力を身に付けている。）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価 80%、事前オリエンテーション・反省会 20%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会（2019）

保育実習の手引き

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	保育実習 (1)	実習園における事前オリエンテーション
2	保育実習 (2)	実習園において指導のもとに観察実習 (1)
3	保育実習 (3)	実習園において指導のもとに観察実習 (2)
4	保育実習 (4)	実習園において指導のもとに参加実習 (1)
5	保育実習 (5)	実習園において指導のもとに参加実習 (2)
6	保育実習 (6)	実習園において指導のもとに参加実習 (3)
7	保育実習 (7)	実習園において指導のもとに参加実習 (4)
8	保育実習 (8)	実習園において指導のもとに参加実習 (5)
9	保育実習 (9)	実習園において指導のもとに部分実習 (1)
10	保育実習 (10)	実習園において指導のもとに部分実習 (2)
11	保育実習 (11)	実習園において指導のもとに部分実習 (3)
12	保育実習 (12)	実習園において指導のもとに部分実習 (4)
13	保育実習 (13)	実習園において指導のもとに部分実習 (5)
14	保育実習 (14)	実習園において指導のもとに半日実習
15	保育実習 (15)	実習園における実習反省会

次世代教育学部こども発達学科

科目コード	52008		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習 I B(施設)		担当者名	坪田 章彦			○		
配当年次	2	配当学期	前期	単位数	2	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

・保育士資格取得にかかわる保育士課程必修の実習として、児童福祉施設・障害者施設等において観察・参加・部分実習を行う。・児童福祉施設・障害者施設での実習を通して、利用者への理解を深めるとともに、施設の機能及び保育士の職務について実践的に学ぶ。

<授業の到達目標>

・児童福祉施設・障害者施設の役割や機能を具体的に理解する。・観察や利用者との関わりを通して利用者の理解を深める。・既習の教科の内容を踏まえ、利用者の保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。・支援の計画、観察、記録及び自己評価等について学び、具体的に理解する。・保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

<授業の方法>

実習

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

保育実習事前指導及び他教科において学んだ内容を整理し、既習の知識や技能を確かめたり実践したりできる準備をしておくこと。また、社会人としてのマナーを身に付けておくこと。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本授業はこども発達学科ディプロマポリシー2「乳幼児期から青年期に至るまでの子どもに対しての発達の、教育的、心理的、感性的、福祉的観点等、多面的に子どもを理解する能力を身に付けている」及びディプロマポリシー3「子どもを取り巻く環境、様々な問題や文化状況に対して、子ども学の知見と教養に基づく知識と、理解する能力を身に付けている」に対応する。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

実習評価100%、事前オリエンテーション、事後学習、実習ノートにより加点

<教科書>

岡山県保育士養成協議会（2021）

保育実習の手引き

<参考書>

特に指定しない

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	保育実習（1）	実習施設における事前オリエンテーション
2	保育実習（2）	観察実習（利用者の様子の把握）
3	保育実習（3）	観察実習（職員の様子の把握）
4	保育実習（4）	参加実習（業務に参加することによる利用者の実際の様子の把握）
5	保育実習（5）	参加実習（業務に参加することによる職員の実際の様子の把握）
6	保育実習（6）	参加実習（業務に参加することによる利用者との相互関係の把握）
7	保育実習（7）	部分実習（朝の食事介助等指導）
8	保育実習（8）	部分実習（午前のレクリエーション指導）
9	保育実習（9）	部分実習（昼の食事介助等指導）
10	保育実習（10）	部分実習（午後のレクリエーション指導）
11	保育実習（11）	部分実習（夜の食事介助等指導）
12	保育実習（12）	半日指導（午前）
13	保育実習（13）	半日指導（午後）
14	保育実習（14）	部分実習（最終レクリエーション）
15	保育実習（15）	実習施設における実習反省会

科目コード	52009		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)		担当者名	平松 美由紀			○		
配当年次	3	配当学期	後期	単位数	1	授業方法	演習	卒業要件	選択

<授業の概要>

保育実習ⅠA(保育所)による保育現場での体験的学習と専門科目の学習を統合し、保育現場において求められる的確で高度な子ども理解の力と高度な実践的保育技能の習得を目指した演習を中心に進める。また、実習生が乳幼児に与える影響の大きさを自覚し、実習の意義、目的、心構え、実習への意欲的態度、立ち振る舞い等における各自の課題解決に取り組む。

<授業の到達目標>

保育実習Ⅱの実習事前学習として以下の点を目標とする。①保育実習Ⅱにおける実習の意義と目的を理解する。②保育実習ⅠAを踏まえた保育実習Ⅱにおける自己課題を明確化する。③実習事前学習として、各年齢に応じた指導案の立案する力を身に付ける。④実習に向けた教材準備、保育技術の向上のための模擬保育に意欲的に取り組む。

<授業の方法>

・講義、演習(実習の意義・目的、保育所の役割、保育者の役割等)、グループワーク(模擬保育、祖相互評価)、個別指導を組み合わせて実施する。

<準備学習等(予習・復習)>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・保育実習指導ⅠAで使用した「保育所実習の手引き」、配布資料等を熟読する。(30分程度)・保育実習ⅠAで明確になった自己課題を整理し、実習Ⅱに向けた課題を精査する。(30分程度)・保育実践における保いう技術スキル(遊びの指導、絵本の読み聞かせ、弾き歌いなど)の反復練習に努める。(30分～1時間程度)・指導計画立案に取り組み、それに基づく模擬保育の準備を行う。(1時間程度)・実習園での指導に向けた教材作成に努める。(30分程度)

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

本科目を受講して得られる知識や能力は「卒業認定・学位授与の方針」に定める「学生が本学における学習と経験を通じ、身につける能力」のうち以下の該当する。ディプロマポリシー2:「乳幼児期から青年期に至るまでの子どもに対する発達の、教育的、心理的、感性的、福祉的観点等、多面的に子どもを理解する能力を身に付けている」、ディプロマポリシー5:「子どもや保護者・教育関係者との円滑な人間関係を築くための、問題解決能力、論理的思考力、情報リテラシー、数量スキル等の力を身に付けている」、ディプロマポリシー6:「保育者としての自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観等を身に付けている」に関連している。

<成績評価方法>※課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法

・授業態度・意欲 30%、課題提出・内容 30%、保育技術実技の準備・取り組み 20%、模擬保育等の準備・グループ貢献度 20%

<教科書>

岡山県保育士養成協議会

保育所実習の手引き

<参考書>

厚生労働省 保育所保育指針 フレーベル館

内閣府文部科学省厚生労働省 幼保連携型認定認定こども園教育・保育要領

フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	保育実習Ⅱの目的と意義	保育実習Ⅱと保育実習ⅠAの相違点と実習の目的と意義
2	保育所(認定こども園)の保育の理解	保育の基本、保育内容と方法
3	保育所(認定こども園)における障害がある子どもの保育	多様な子どもへの保育の理解
4	指導計画案の作成(1)	部分指導に指導計画立案
5	指導計画案の作成(2)	半日指導案の立案
6	模擬保育の実践(1)	グループでの模擬保育の実践と相互評価(行事・園全体での会等)
7	模擬保育の実践(2)	グループでの模擬保育の実践と相互評価(リズム遊び、音楽を使った遊び等)
8	模擬保育の実践(3)	グループでの模擬保育の実践と相互評価(体を使った遊び等)
9	模擬保育の実践(4)	グループでの模擬保育の実践と相互評価(造形・製作遊び等)
10	模擬保育の実践(5)	グループでの模擬保育の実践と相互評価(文字や数、言葉を使った遊び等)
11	実習日誌の内容と記載	各年齢における子どもの姿、ねらい、環境構成、保育者の援助等各項目のよりよい記入の仕方
12	実習に向けた諸準備	実習関連書類(実習生自己紹介等)の適切な記入について、事前オリエンテーションの受け方等
13	実習における留意事項	守秘義務、子どもの生命・安全確保・実習生として留意する事項
14	実習事前指導の総括	実習生としての心構え、マナー等、実習に向けての最終確認事項、自己課題の明確化と考察
15	実習事後指導・総括まとめ	実習自己評価、実習の振り返り(グループワーク)、実習のまとめ

科目コード	51008		区分	コア科目			実務経験のある教員等による授業科目		
授業科目名	教育実習事前・事後指導(幼稚園)		担当者名	檜寄 日佳			○		
配当年次	3	配当学期	前期	単位数	1	授業方法	実習	卒業要件	選択

<授業の概要>

幼稚園教諭免許取得のためには現場での体験的な学習が必須である。事前指導では、これまでの幼児教育に関する学びを整理し、理論と実践をつなげるために、模擬保育、教材研究、指導案の作成、保育技術の復習等、実習を想定した様々な準備をしていく。また、「幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う」人間教育であることから、実習生の立ち居振る舞いも問われる。教育実習の意義と心構えを十分に理解し、自己課題を明確にするための学びも重視する。事後指導では、実習の成果と残された課題を分析し、幼稚園教諭としての自覚と問題意識を高める

<授業の到達目標>

1. 幼稚園実習の事前準備を通して保育の方法と技術を見直し、自己課題を明確にする。2. これまでに学んだ理論を生かして指導案の作成、模擬保育の実施、教材研究、保育技術の復習などを行い、実習に備える。3. 教育実習の意義を理解し、心構えを自覚すると共に、不安を和らげてよい緊張感をもって実習に臨めるようにする。4. 実習後、成果の確認と残された自己課題を分析し、幼稚園教諭としてのさらなる学びへの意欲を持つ。

<授業の方法>

・講義、演習（実習の意義・目的、保育所の役割、保育者の役割等）、グループワーク（模擬保育、祖相互評価）、個別指導を組み合わせ実施する。

<準備学習等（予習・復習）>※具体的な内容及びそれに必要な時間等

・「教育実習の手引き」や配布資料等を熟読する。・保育技術スキル（遊びの指導、絵本の読み聞かせ、弾き歌いなど）の反復練習をする。・指導計画立案に取り組み、それに基づく模擬保育の準備をする。・実習園での指導に向けた教材作成に努める。

<卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連>

幼稚園教諭免許状取得のために必要な科目である。これまで学んだ専門的知識や保育技術を実践することで、こども発達学科のディプロマポリシー6（保育者としての自己管理能力、チームワーク、リーダーシップ、倫理観等を身に付けている。）、3（子どもを取り巻く環境、様々な問題や文化状況に対して、子ども学の知見と教養に基づく知識と、理解する能力を身に付けている。）、5（子どもや保護者・教育関係者との円滑な人間関係を築くための問題解決力、論理的思考力、情報リテラシー・数的スキル等の力を身に付けている）に対応している。

<成績評価方法>※課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

・授業態度・意欲 30%、課題提出・内容 30%、保育技術実技の準備・取り組み 20%、模擬保育等の準備・グループ貢献度 20%

<教科書>

環太平洋大学（2021）

教育実習の手引き（幼稚園）

<参考書>

文部科学省（2017） 幼稚園教育要領 フレーベル館

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2017） 幼保連携型認定こども園教育・保育指針 フレーベル館

文部科学省（2018） 幼稚園教育要領解説 フレーベル館

<授業計画>

回	テーマ	授業内容
1	幼稚園実習の理解	教育実習の意義と目的、教育実習の目標と自己課題、実習の段階と計画
2	保育者の資質と幼児理解	保育者の役割、保育者の資質、発達の理解
3	実習の準備	実習の心得、実習の流れ、実習の具体的準備
4	実習の姿	DVD視聴「保育者の役割」、保育者の姿の読み取り
5	実習日誌の形式と書き方	実習日誌の具体的な書き方とポイント
6	指導案の書き方とポイント	指導計画案の立て方の手順と書き方
7	指導案の書き方と模擬保育(1)	部分実習指導案の作成と模擬保育
8	指導案の書き方と模擬保育(2)	半日実習指導案の作成と模擬保育
9	指導案の書き方と模擬保育(3)	全日実習指導案の作成と模擬保育
10	模擬保育の実施と評価(1)	部分実習模擬保育の実施と評価、実習日誌の記入の仕方
11	模擬保育の実施と評価(2)	全日指導模擬保育の実施と評価、実習日誌の記入の仕方
12	幼児の理解と援助	配慮が必要な幼児の理解と援助
13	実習直前指導	幼稚園オリエンテーション、実習関連書類の作成と諸注意
14	教育実習のまとめ	実習を振り返って・お礼状の作成
15	総括・実習報告会	実習の成果報告と今後の課題の明確化